農地機構だより

～人と農地をつなぐ～　第22号

（公財）しまね農業振興公社
（農地バンク）
2020年 8月 発刊
松江市黒田町432番地1
0852−20−2871

今回は、従業員平均年齢30歳代の会社法人を紹介します!!

出雲市平田町　～株式会社岡農産～

株式会社岡農産は、現代表取締役の岡さんが父親からブロッコリーと水田の経営を継承したことを受け、2018年4月に設立されました。法人化直前は約50haの経営面積でしたが、現在は88haに拡大をされ、経営面積のほとんどになる約81haで中間管理事業を活用されています。

代表取締役社長の岡舗潔（のぶゆき）さんにお話を伺いました。（インタビュアー：県公社 平塚、中川）

株式会社岡農産のみなさん。前列右側２番目が岡代表

Q 法人の概要は

A

●社員
役員４人、従業員９人
（20代２名、30代５名、40代２名）

●作目
主食用米（約50ha）
ブロッコリー（19ha）
キャベツ（7ha）
タマネギ（10ha）　等

Q 従業員の募集はどのように？

A 募集は、公共職業安定所（ハローワーク）、農の雇用事業、従業員が知り合いに声をかけるなど、色々な方法を活用しているが主には公共職業安定所を活用している。従業員の声がけでも集まっている。

Q 若手の方が多いように思うが、定着の理由は？

A 心がけていることは同時に２人以上雇うこと。１人だと先輩になかなか言いにくいこともあると思うし、自分だったら１人は気まずい。また、社員の年齢が近いので、良い意味での競争があることも理由の一つだと思う。何より、自分だったら１人だけの雇用は嫌なので。

従業員は出雲市内がほとんどだが、松江市から通勤している従業員もいる。

Q 中間管理事業を活用するきっかけは？

A きっかけは、賃借料の支払い事務を公社がしてくれること、関連する補助事業の内容などの情報をもらえること。今までは相対か円滑化事業でやっていたが、その時は物納の支払いが大変だった。今は物納をゼロにして金納にしているので、公社がやってくれて楽になり、結果として営農に専念できるようになったのですごく助かっている。

Q 中間管理事業に望むことは？

A 集約の際に中に入って協力してほしい。農地交換は主に年配の方が嫌がる。担い手さんの中にも毎年肥料を入れて管理していることに誇りを持っている人もいる。

水系ごとにまとめれば水問題もなくなるし、転作もできる。機械の積み卸しも楽になると思う。

座談会が平日の日中になることもあり、地元の人がもっと参加できる話し合いの場があれば良い。

Q 美味しまね認証を取る可能性は？

A タマネギで美味しまねゴールドを考えている。美味しまねゴールドを取得すれば JGAP も取りやすいと思う。

Q 最後に、今後の展望、思いを聞きました！

A 200ha を目標にしている。水稲に関してはこれ以上増やさず、野菜を増やしていこうと思う。

今年５月にはタマネギの倉庫が完成した。今はブロッコリーが主だが、再来年はタマネギも同じくらいに広げたい。

従業員の数も毎年増やしていくつもり。　男性に限らず、女性も雇用していきたい。

完成したタマネギ倉庫

編集後記

夏も近づき、我が家では昨年に産まれたカブトムシの卵が孵化をし、成虫となりました。他にも生き物好きの長男のおかげもあって、クワガタムシ、カミキリムシ、カナヘビ、アカハライモリ、熱帯魚など我が家は生き物だらけです。

２歳になった次男も長男と一緒になって生き物のお世話をしてくれます。アカハライモリは 10 年以上生きるそうです。一緒に成長してくれることを願う今日この頃。

（ＹＤ）